

# 副

## 大阪府がん対策推進委員会 がん診療拠点病院部会 粒子線がん治療検討ワーキンググループ 意見書

平成 28 年 10 月 26 日に開催した本ワーキンググループ会議における審議を踏まえ、大手前地区に整備される重粒子線がん治療施設の運営に関する今後の取組みについて下記のとおり意見を述べる。

### 記

平成 30 年 3 月に開設予定の重粒子線がん治療施設「大阪重粒子線センター（予定）」において提供される重粒子線によるがん治療については高度な先進医療であり、今後、多くの臨床研究を行い治療技術の確立に向けた取組みが必要である。

本施設において質の高い治療を行っていくためには、高度な医療を提供する医療機関と連携して臨床研究等を実施し、部位別によるがんの治療方法を確立することが重要であり、そのための検討体制を構築することが効果的である。

「九州国際重粒子線がん治療センター」を参考にして本会議で提案された、「(資料 2) 重粒子線がん治療臓器別ワーキングの設立について (案)」(別紙参照)による取組みは有効な手段である。

そのため、本施設と府内の大学病院をはじめとする特定機能病院などが参画した検討体制の構築並びに治療技術の確立に向けた取組みに努められたい。

平成 28 年 11 月 22 日

大阪府がん対策推進委員会 がん診療拠点病院部会  
粒子線がん治療検討ワーキンググループ

座長 小川 和彦 (印)

## 重粒子線がん治療臓器別ワーキングの設立について (案)

## 1. 設立の趣旨

国内のがんによる死亡数は年々増加傾向にあり、大阪府においてもその対策は喫急の課題となっている。このような背景により、大阪府立成人病センターの移転に伴い、大阪に国内 6 番目の重粒子線施設「大阪重粒子線センター (予定)」を平成 30 年に開設することとなった。しかしながら、この重粒子線による治療はまだ開発途上の技術であり、今後、更に多くの臨床を行うことにより確立されることとなる。

このようなことから、大阪府下の特定機能病院が中心となり、重粒子線治療における診療、臨床研究、臨床データの情報交換などを通して、がん治療の技術向上を行うものである。

## 2. 臓器別ワーキングの目的

重粒子線がん治療臓器別ワーキングは、重粒子線施設の有効利用を目的とし、各施設との協力体制を確立して、重粒子線を使ったがん治療の臨床研究や、効果が高い診療を実施するために臓器別ワーキングを開催する。

## 3. ワーキングの組織・構成

- (1) ワーキングのグループは、頭頸部、呼吸器、骨軟部、泌尿器、肝胆膵、食道、直腸とする。
- (2) 各グループのグループ長は、一般財団法人大阪国際がん治療財団 (公益財団法人へ移行予定) 理事長が委嘱する。
- (3) メンバーは各施設 (参加依頼先) から 1 名として、グループ長の判断により他の医療機関からも選出し、必要に応じて増員可能とする。
- (4) 構成メンバーの任期は 3 年とし、再任を妨げない。

## 4. ワーキングの運営

- (1) 臓器別ワーキング毎に、年 2 回の会議を開催する。
- (2) 重粒子線治療成績について、専門的立場より意見交換を行う。
- (3) ワーキングの委員に対して、謝金と交通費を支給する。

## 5. ワーキングの検討事項 (※佐賀ハイマットの取組を参照)

- (1) 臓器別重粒子線治療プロトロールの公示開示、意見交換及び施設間協力体制の確立
- (2) 集学的治療プロトコールの開示、意見交換及び施設間協力体制の確立
- (3) 治療結果 (有害事象を含む) についての開示及び意見交換
- (4) 治療成果公表 (論文・HP 等) についての意見交換
- (5) 新たな治療対象、治療戦略、臨床プロトコールに関する協議

## 6. 期間

ワーキングの継続期間は 3 年として、その後は継続の有無、新設の必要性や運営方法について見直す。

## 7. 事務局

ワーキングの事務を処理するため、一般財団法人大阪国際がん治療財団 (公益財団法人へ移行予定) に事務局を置く。

## 参加依頼先 (五十音順)

## 【大学】

大阪医科大学、大阪市立大学、大阪大学、関西医科大学、近畿大学

## 【医療機関】

大阪府立成人病センター、一般財団法人大阪国際がん治療財団「大阪重粒子線センター (予定)」 (公益財団法人へ移行予定)

※今後、上記の各団体へ、本ワーキングへの参加を正式に依頼していく予定です。